

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

読むこと部 研究主題

学びの質を高める、評価活動と指導の工夫

第4学年国語科学習指導案

単元名

大事な言葉や文に気をつけて要約しよう

～興味をもったことを中心に要約し、しょうかい文を書こう～

学習材名「ウミガメの命をつなぐ」(教育出版 4年)

日 時: 令和4年2月18日(金)5校時

児 童: 文京区立千駄木小学校 第4学年3組 38名

担 任: 文京区立千駄木小学校 主任教諭 森本 泰介

指 導 者: 品川区豊葉の杜学園 主幹教諭 多田羅 智美

1 単元の目標

- 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解できる。 (知識及び技能)
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約できる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------|--|--|--|
| 単元の評価規準 | ① 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)力) | ①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付け、要約している。(C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) | ① 粘り強く、興味をもった研究について中心となる語や文を見付けたり、要約したりして学習の見通しをもって紹介文を書こうとしている。 |

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

説明的な文章においては、段落相互の関係に着目しながら、文章の構造や内容を把握してきた。また、大事な言葉を抜き出しながら、筆者かどのような考えを述べているのか理解してきた。

4 学年児童の読みの実態として、文章の読み方を理解している児童が少ないことが挙がる。そのため、与えられた学習活動に取り組むことに終始する児童が多くなっている。本単元では、単元の冒頭に文章を読む上での目標を提示する。また、その目標を達成するために必要な言語活動を提示する。学習計画を立てる中で、自らの目標を達成するためにどのような読みが必要か考え、見通しをもって学習できるようにする。

(2) 学習材について(学習材観)

本学習材には、ウミガメを保護する水族館の取り組みについて書かれている。産卵や放流を通し、どのような研究を行ってきたのか、そこにはどんな課題があったのか読者に問い、その内容を述べている。問いとそれに対する答えが明確に書かれており、文章全体の構造を段落相互の関係からつかみやすくなっている。終末には、筆者

の考えが述べられており、生き物を保護する水族館の在り方についての考えが明確に書かれている。

本単元では、学習材から興味をもった研究を基に要約を取り入れた紹介文を書く。学習材には水族館がウミガメの生態を明らかにするために様々な工夫を行っていることが述べられている。児童の感想を取り上げながら、研究の中で困難を乗り越える水族館の様子、謎の多いウミガメの生態に着目できるようにする。

(3) 単元について(単元観)

本単元は、小学校学習指導要領(平成平成 29 年度告示)国語科(第3学年及び第4学年)2内容〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

を受けて設定する。単元を通し、段落相互の関係を捉えながら、述べられる事例や理由と筆者の考えがどのように関係しているか考え、学習材の内容を理解できるようにする。また、学習材で読んだことから、自らの興味に合わせて、感想や考えをもてるようにする。

学習を始めるにあたり、読みの目標を児童に示す。読むことにおける資質・能力の面から、単元で目指す目標を明確に捉え、その達成に向けて学習する意識をもたせる。その上で、自らの興味に合わせた紹介文を書くことを伝える。終末の活動を示すことで、ゴールイメージをもち、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

学習材を読む中で、自分が使った読み方や、その読み方でどのような事柄が分かったのかを「学びの手引き」に記録する。学習の中で「学びの手引き」を振り返りながら、自らに必要な読み方を考えることで、学びの調整を図り、主体的に学習材を読むことにつながる。

紹介文は、1 単位時間の読み取りで捉えた事柄や、自分もった感想を生かしながら書く。自らの感想に応じ、どの文章を要約すればよいか考えさせることで、興味に沿った要約文を書かせる。

4 研究主題に迫るために

(1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 学習のつながりが分かる単元構成

本単元は、右図(「要約の3ステップ」)のように構成されている。全ての学習活動が、第三次の「興味をもった研究を中心に要約し、紹介文を書く」という活動につながるように意識した。特に、第2～5時においては、めあてを達成するためには、「文章を詳しく読み、要約につながる要点を捉える」ことが重要であることを確認し、学習に必然性をもたせる。そして、そのことを常に児童と確認しながら学習が進められるよう、「要約の3ステップ」を児童と共有する。このように、学習のつながりを意識した指導をすることで、「興味をもったことを中心に文章を要約する力」を確実に身に付けさせる。



図 「要約の3ステップ」

② ICTの活用

ICT のよさの一つとして、情報を早く、視覚的に相手に伝えられることが挙げられる。そのよさを生かし、本単元では、教師が児童に情報を提示する際の手だてとして、プレゼンテーションソフトを活用する。主な活用場面は、以下の3つである。

【第1時】今回の学習の概要について提示する。

【第4時】各段落の要点をとらえる方法(ステップ1)を具体的に提示する。

【第6時】要約の方法(ステップ2・3)を具体的に提示する。

このような場面で ICT を活用することで、教師は短時間で児童に学習の見通しをもたせることができる。また、データを共有して他学級で使用すれば、学年で統一した指導ができる。

(2) 学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

【学びの手引きの活用】指導事項(身に付けたい力)の明確化と児童との共有

本単元では、指導事項(身に付けたい力)を以下の2つに整理した。

◎興味をもったことを中心に文章を要約する力

○文章を読んで興味をもったことを中心に感想をもつ力

本単元では、単元導入の段階で、「学びの手引き」を活用してこれら2つの指導事項について同様の文言で児童と共有し、これらの力かどの程度身に付いたかで評価を行うことを児童に伝える。そして、第一次、第二次、第三次それぞれの終末において、「学びの手引き」を書く活動を取り入れ、学習のまとめに、指導事項に照らし合わせながら自己の学習について振り返り、自己評価できるようにした。このように教師・児童が双方に指導事項を強く意

識しながら学習を進めることで、教師はめあてが明確な授業を行うことができ、児童はめあてに向かって自己の学習を調整しながら、主体的に学習に取り組むことができる。

(3)言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫

①前単元とのつながりを意識させる

本単元の最初の活動を、「既習の説明的な文章(『要約』を取り扱った単元)の学習について振り返る」とした。前回は、「筆者の考えを中心に文章を要約する」学習であった。今回は、既習事項を活用し、「要約を取り入れながら、文章を読んで興味をもったことについて紹介する」学習を行う。そのことを児童と共有し、学習のつながりを意識できるようにした。

②既習事項を活用しながら内容を読み取る

本単元の第2～5時では、「興味をもったことを中心に要約する」というめあてを達成するために、「文章を詳しく読み、要約につながる大事な言葉を探して要点を捉える」という活動を行う。第二次は、既習事項を活用しながら学習を進める。第2、3時では、段落の役割に気を付けながら読む力を活用し、「はじめ」「中」「おわり」の段落構成を捉える。また、段落相互の関係に気を付けながら読む力を活用し、「問い」と「答え」に着目しながら文章の内容を整理する。

③本単元で身に付けた力を活用できる場面を考える

本単元の最後の活動は、「『学びの手引き』を活用し、本単元の学習について振り返る」である。ここでは、本単元で身に付けた力が今後どのような場面で活用できるかを考える機会を設ける。例えば、社会科や総合的な学習の時間で、興味をもったことを中心に学習内容を新聞などにまとめる学習や、クラブ活動で、そのクラブの魅力について下級生に紹介する活動などである。

④学習材に出てきた言葉の活用方法を考える

「学びの手引き」に「文作り」の項目を設けた。本文に出てきた言葉を使って、文を作るというものである。帯の時間やモジュールを活用し、必要に応じて授業に取り入れていく。こうすることで、児童・教師ともに大きな負担なく語彙の拡充を進めることが可能だと考えた。

5 単元計画(全7時間)

| 次 | 時 | 学習過程 | 学習活動 | ○指導上の留意点 手引きの活用 | ◆評価規準 ★評価方法 |
|---|--------|----------|---|---|--|
| 一 | 1 | | <p>1 既習の説明的な文章（「要約」を取り扱った単元）の学習について振り返る。</p> <p>2 紹介文の例を読んで、単元の言語活動（他校の4年生に今回の学習について紹介する）を知る。</p> <p>3 「ウミガメ」や「絶滅の恐れのある動物」などについて知っていることを話し合う。</p> <p>4 全文を読み、初発の感想を伝え合う。</p> <p>5 単元のゴールに向けて、どのような学習活動が必要か考え、学習計画を立てる。</p> <p>6 これからの学習についての見通しをもつ。</p> | <p>・今回も「要約」を学習するが、「興味をもったことを中心に要約する」ことが今回の学習の中心であることを確認する。(ICTの活用)</p> <p>・同じ4年生が書いた「ウナギのなぞを追って」の紹介文を用意する。</p> <p>・紹介文では、興味をもったことについて紹介するために、本文の要約を取り入れていることを確認し、要約について学習することに必要感をもたせる。(ICTの活用)</p> <p>・題名に着目したり、ウミガメの写真を見せたりして、教材文への興味関心を高める。</p> <p>・それぞれの感想の違いに着目し、同じ文章を読んでも、興味をもつことは異なることがあると気付かせ、紹介文を書くことに必要感をもたせる。</p> <p>・「文章を詳しく読むこと」「紹介したい研究を決めること」「要約すること」などが必要なことに気付かせる。</p> <p>手引きの活用</p> <p>・これからの学習で、どのような既習事項が生かせそうか考えさせる。</p> | |
| 二 | 2 3 | 構造と内容の把握 | <p>1 前時を振り返り、本単元の学習計画を確認する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>文章のこう成をつかみ、問いと答えをさがそう</p> </div> <p>3 文章を「はじめ・中・終わり」に分ける。</p> <p>4 学級全体で、「中」の分け</p> | <p>・第2～5時は、「興味をもったことを中心に要約する」というめあてを達成するために、「文章を詳しく読み、要点をとらえる」ということを確認し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・はじめと終わりを確認し、中を3つに分けるようにさせる。</p> <p>・以下の2点については必ず</p> | <p>◆【知・技—①】 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割等に気を付けながら、「中」の構成を捉えているかの確認。</p> |

| | | | | | | | | |
|---|-----------|---|--|--|---|-----------|---|---|
| | | <p>方を確認する。</p> <p>5 「問い」の文を確認する。</p> <p>6 「問い」に対する「答え」にサイドラインを引く。</p> <table border="1" data-bbox="454 689 812 1064"> <tr> <td data-bbox="454 689 758 913"> <p>人工の砂法で産卵させる。 人工の砂法に周りの明かりが入らないようにした。 卵を産む時期には見回りも注意して行った。 餌の種類や栄養、水温、砂の種類などを工夫した。 ウミガメの血液を調べて体調を管理した。</p> </td> <td data-bbox="758 689 812 913"> <p>研究</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="454 913 758 1064"> <p>ウミガメが敏感で、少しくも気になるとう卵を産まない。</p> </td> <td data-bbox="758 913 812 1064"> <p>課題</p> </td> </tr> </table> <p>7 3つの研究の中から、紹介したい研究を1つ選び、紹介文の第1段落に書く。</p> <p>8 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> | <p>人工の砂法で産卵させる。 人工の砂法に周りの明かりが入らないようにした。 卵を産む時期には見回りも注意して行った。 餌の種類や栄養、水温、砂の種類などを工夫した。 ウミガメの血液を調べて体調を管理した。</p> | <p>研究</p> | <p>ウミガメが敏感で、少しくも気になるとう卵を産まない。</p> | <p>課題</p> | <p>押さえる。</p> <p>①「問い」が「研究内容」と「解決すべき課題」の2点であること。</p> <p>②「中」が「産卵・孵化研究」「放流研究」「新たな課題と取り組み」の3つに分けられること。</p> <p>・「どのような研究」と「どのような課題」の2つのことについて問われていることを押さえる。</p> <p>・「研究」については赤、「課題」については青でサイドラインを引かせる。</p> <p>・次のように、言葉を補いながら活動内容について児童に説明する。</p> <p>「研究」→ 水族館の人がしたこと 「課題」→ 難しさ・更なる疑問</p> <p>・教師が、左の表のように「答え」を整理する。</p> <p>・次時は、要約をするために、要点の捉え方を身に付けることを確認する。</p> | <p>B:「中」を6段落、10段落、19段落の前で区切っている。</p> <p>A:「中」を6段落、10段落、19段落の前で区切り、それぞれのまとまりに小見出しを付けている。</p> <p>★全文シート・ノート</p> |
| <p>人工の砂法で産卵させる。 人工の砂法に周りの明かりが入らないようにした。 卵を産む時期には見回りも注意して行った。 餌の種類や栄養、水温、砂の種類などを工夫した。 ウミガメの血液を調べて体調を管理した。</p> | <p>研究</p> | | | | | | | |
| <p>ウミガメが敏感で、少しくも気になるとう卵を産まない。</p> | <p>課題</p> | | | | | | | |
| 4 | 精査・解釈 | <p>1 前時を振り返り、今後の学習計画を確認する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>3 要約の「ステップ1」を知る。</p> <p>4 「ウナギのなぞを追って」の要点を書く。</p> | <p>・問いに対する答えを見付けながら、中の内容を捉えてきたことと自分が紹介したい研究を要約するために要点をおさえることを確認する。</p> <p>・児童が取り掛かりやすくするために、既習の説明文を使い、要点の捉え方を全体で共有する。</p> | <p>ステップ1を使って、要点のとらえ方を身につけよう</p> <table border="1" data-bbox="831 1653 1273 1870"> <tr> <td> <p>【ステップ1】</p> <p>★大事な言葉や文に気を付けながら、各段落の内容を1～2文にまとめる。</p> <p><大事な言葉や文></p> <p>・文章の種類や内容によって異なる。</p> <p>・「問い」の「答え」にあたる部分であることが多い。</p> </td> </tr> </table> | <p>【ステップ1】</p> <p>★大事な言葉や文に気を付けながら、各段落の内容を1～2文にまとめる。</p> <p><大事な言葉や文></p> <p>・文章の種類や内容によって異なる。</p> <p>・「問い」の「答え」にあたる部分であることが多い。</p> | | | |
| <p>【ステップ1】</p> <p>★大事な言葉や文に気を付けながら、各段落の内容を1～2文にまとめる。</p> <p><大事な言葉や文></p> <p>・文章の種類や内容によって異なる。</p> <p>・「問い」の「答え」にあたる部分であることが多い。</p> | | | | | | | | |

| | | | | |
|-----|--|---|--|---|
| | | 5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 | ・次時は、「ステップ1」として、紹介文を書くために自分が選んだ研究の要点をとらえることを確認する。 | |
| 5 | | 1 前時を振り返り、「ステップ1」を確認する。 2 本時のめあてを確認する。 | | ◆【思—①】 大事な文や言葉を見つけて要点を書いているかの確認。 |
| | | 自分が選んだ研究の要点を書こう | | |
| | | 3 「ウミガメの命をつなぐ」の大事な言葉や文の見付け方を考える。 4 第3時で選んだ自分が紹介したい研究の要点を書く。 5 同じグループの友達と書いた要点について交流する。 6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 | ①いつ、どんな研究をしたか ②どんな課題があったか ③結果はどうだったか ・予め、同じ研究を選んだ児童を3人グループにしておく。 ・次時は、興味をもったことを中心に文章を要約することを確認する。 | B: 選んだ研究を紹介するために、大事な文や言葉を見付け、要点を書いている。 A: 選んだ研究を紹介するために、大事な文や言葉を見付け、主語と述語の関係や文同士のつながりに気を付けて要点を書いている。 |
| | | | 手引きの活用 ・「興味をもったことを中心に大事な言葉や文を見付ける」という目標に対して、どの程度達成できたか振り返らせる。 | |
| 6本時 | | 1 前時までの学習について振り返り、今後の学習計画を確認する。 2 本時のめあてを確認する。 | ・文章構成と「中」の内容について学習し、要約につながる要点をとらえてきたことと、それをもとに興味をもった研究を中心に要約することを確認する。 | ◆【思—①】 興味をもったことを中心に文章を要約しているかの確認。 |
| | | 紹介したい研究を要約しよう | | |
| | | 3 自分が一番紹介したい研究を確認する。 4 要約の方法について知る。 5 要点を活用し、要約する。 6 要約文を読み合い、感想を伝え合う。 | ・選んだ研究がかかっている段落を音読する。 ・「ウナギのなぞを追って」で作成した要約文（モデル文）を例示しながら、「ステップ2・3」を紹介する。(ICTの活用) ・今まで書き溜めてきた要点を活用することを確認する。 ・同じ研究を要約した3人グループに分かれて行う。文 | B: 自分の紹介したい研究について要約している。 A: 「ステップ3」を活用し、自分の紹介したい研究について文や段落同士の関係やつながりに気を付けて文章を整えながら要約している。 |

| | | | | | | | | | | | |
|--|------|----------|--|--|----------------|------|----|----|----------|--|--|
| | | | 7 「要約すること」を中心に自己の学習を振り返る。 | と文のつながりや言葉を補ったり書き換えたりしているところを見付けて感想を伝えさせる。 手引きの活用 ・「興味をもったこと」を中心に要約する」という目標に対して、どの程度達成できたか振り返らせる。 | ★ワークシート・学びの手引き | | | | | | |
| 三 | 7 | 考えの形成・共有 | 1 本時のめあてを確認する。 「要約」を取り入れて紹介文を書こう 2 紹介文を仕上げる。 紹介文の文章構成 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>第3段落</td> <td>第2段落</td> <td>第1段落</td> </tr> <tr> <td>感想</td> <td>要約</td> <td>興味をもったこと</td> </tr> </table> 3 書いたものを読み合い、感想を伝え合う。 4 本単元の学習について振り返る。 | 第3段落 | 第2段落 | 第1段落 | 感想 | 要約 | 興味をもったこと | ・以下のような構成で書かせる。 第1段落「興味をもったこと」 第2段落「要約」 第3段落「感想」 ・「文章の内容についての感想」を書く。 ＜文章の内容についての感想＞ ・驚いたこと・初めて知ったこと ・もっと知りたいこと・感動したことなど ＜文例＞ ・私は、～したことがあるけれど～。 ・私は、～だと思っていたけれど～。 ・私は、もっと～を知りたいです。 ・私は、さらに～を調べたいです。 ・私は、～に驚きました。なぜなら…からです。 ・違う研究を選んだグループで、紹介文を読み合う。 手引きの活用 ・「文章の内容についての感想」を書くことがどの程度できたのか振り返らせる。 ・「興味をもったこと」を中心に要約する」や「文章を読んで興味をもったこと」を中心に感想をもつ」という目標について振り返らせる。これらの力が、今後どのような場面で活用できるか考えさせる。 | ◆【思一②】 紹介文の「感想」において、文章の内容についての感想が書けているかの確認。 B: 「文章の内容についての感想」を書いている。 A: 「文章の内容についての感想」を「要約」と関連付けながらまとめている。 ★ワークシート ◆【主一①】 「この単元で身に付けたい力」がどの程度身に付いたのか、その力は今後どのような場面で活用できるか考えているかの確認。 ★学びの手引き |
| 第3段落 | 第2段落 | 第1段落 | | | | | | | | | |
| 感想 | 要約 | 興味をもったこと | | | | | | | | | |
| | | | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td> B: 「この単元で身に付けたい力」やその活用場面について、質問に正対して振り返っている。 A: 「この単元で身に付けたい力」やその活用場面について、自己の成長や課題について明らかにし、質問に正対して振り返っている。 </td> </tr> </table> | B: 「この単元で身に付けたい力」やその活用場面について、質問に正対して振り返っている。 A: 「この単元で身に付けたい力」やその活用場面について、自己の成長や課題について明らかにし、質問に正対して振り返っている。 | | | | | | | |
| B: 「この単元で身に付けたい力」やその活用場面について、質問に正対して振り返っている。 A: 「この単元で身に付けたい力」やその活用場面について、自己の成長や課題について明らかにし、質問に正対して振り返っている。 | | | | | | | | | | | |

6 本時の学習(6/7)

(1) 本時のねらい

紹介したい研究を要約する。

(2) 本時の展開

| 学習活動 | ○指導上の留意点 | ◆評価規準 ★評価方法 |
|--|--|---|
| <p>1 前時までの学習について振り返り、今後の学習計画を確認する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> | <p>○文章構成と「中」の内容について学習し、要点をとらえてきたことと、それをもとに興味をもった研究を中心に要約することを確認する。</p> | |
| <p>紹介したい研究を要約しよう</p> | | |
| <p>3 自分が一番紹介したい研究を確認する。</p> <p>4 要約の方法について知る。</p> | <p>○3つの研究から、1つ選んでいることを確認する。</p> <p>○選んだ研究について書かれている段落を音読する。</p> <p>○前時で捉えた要点を研究ごとに模造紙にまとめて掲示しておく。</p> <p>○「ウナギのなぞを追って」で作成した要約文(モデル文)を例示しながら、要約の「ステップ2・3」を紹介する。(ICTの活用)</p> | |
| <p>5 紹介した研究を中心に文章を要約する。</p> | <p>【ステップ2】 ★要点をつなぐ。 各段落の要点をつなぎ合わせて、文章を作る。</p> | <p>【ステップ3】 ★読み手のことを考えながら、言葉を付け足したり、けずったり、別の表現にかえたりする。 <気を付ける言葉> ・つなぎ言葉・文末表現・重なる言葉</p> |
| | <p>○要約の条件を確認する。 ・前時までに作成した要点を活用すること。 ・ステップ2ができれば、ステップ3へ進むこと。</p> | <p>◆【思考・判断・表現②】 紹介したい研究を要約しているかの確認。</p> |
| <p>6 要約文を読み合い、感想を伝え合う。 ・同じ研究を要約したけれど、つなぎ言葉を使う方法は思いつかなかった。 ・違う言葉に言い換えているところをまねしたいな。</p> | <p>評価に対する指導 ○概ね満足ができる児童への手立て 文や段落同士の関係やつながりに気を付けて要約するように声を掛ける。 ○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て 要点をつないで、1文程度、教師が要約文を示す。</p> | <p>B: 自分の紹介したい研究について要約している。 A: 「ステップ3」を活用し、自分の紹介したい研究について文や段落同士の関係やつながりに気を付けて文章を整えながら要約している。</p> |
| | <p>○同じ研究を要約した3人グループに分かれて行う。文と文のつながりや言葉を補ったり書き換えたりしているところを見付けて感想を伝えさせる。</p> | <p>★ノート・学びの手引き</p> |

| | | |
|--|---|--|
| <p>7 「要約すること」を中心に自己の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2・3を使うと、要約がすらすらできた。 ・文と文をつなぐ時に、つなぎ言葉を考えて使うことができた。 | <p>手引きの活用</p> <p>○ 「興味をもったことを中心に要約する」という目標に対して、どの程度達成できたか振り返らせる。</p> | |
|--|---|--|

<板書計画>

要約の3ステップ

ゴール 要約文完成

ステップ3 文章をととのえる

ステップ2 要点をつなぐ

ステップ1 各段落の要点をとらえる

★読み手のことを考えながら、言葉や付け足したり、けずったり、別の表現にかえたりする。
<つなぎ言葉> ・文末表現 ・常なる言葉

★要点をつなぎ合わせて、文章を作る。
<重要な言葉や文> ・重要な言葉や文に気をつけながら、各段落の内容を1～2文にまとめる。

★大事な言葉や文に気をつけながら、各段落の内容を1～2文にまとめる。
<大事な言葉や文> ・文章の構成や内容によって異なる。・「問い」が「答え」にある部分であることを意識する。

めあて
紹介したい研究を要約しよう

大事な言葉や文に気をつけて要約しよう
ウミガメの命をつなぐ

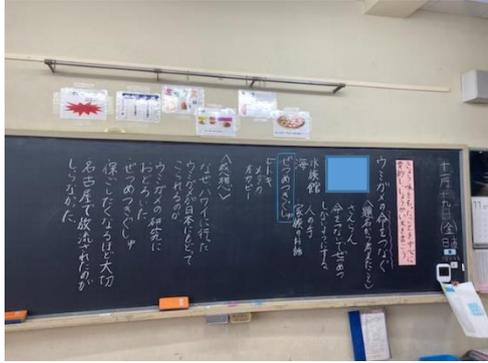
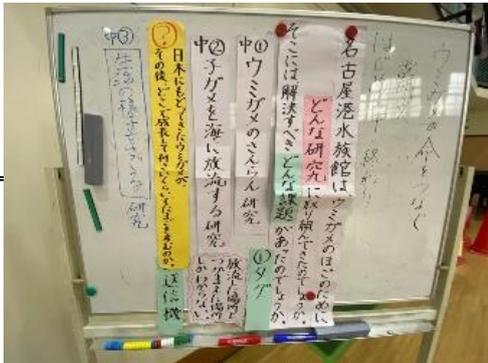
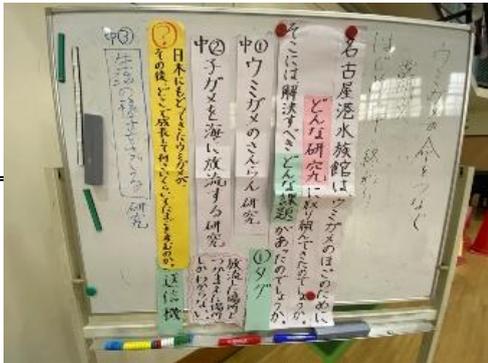
松田 乾

ステップ2
要点をつなぐ。
各段落の要点をつなぎ合わせて文章を作る。
○ 今までの要点を使う。

←

ステップ3
文章をととのえる。
読み手が読みやすいようにつなぎ言葉
○ 文末表現
○ 何度も出てくる言葉
言葉をつけたしたりけずったり、言いかえたりする。

事前授業の実際

| 過程 (次) | 時 | 学習活動 | 授業の様子・板書 |
|-----------|---|---|---|
| 一 | 1 | <ol style="list-style-type: none"> 1 既習の説明的な文章（「要約」を取り扱った単元）の学習について振り返る。 2 スライドを使い、単元の言語活動について知る。 3 「ウミガメ」や「絶滅の恐れのある動物」などについて知っていることを話し合う。 4 全文を読み、初発の感想を伝え合う。 5 単元のゴールに向けて、どのような学習活動が必要か考え、学習計画を立てる。 |  |
| 二 | 2 | <ol style="list-style-type: none"> 1 文章の構成を知り、グループごとに中を4つに分ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ホワイトボードとマグネットを使い、グループごと段落番号を書いたカードを動かしながら、段落のまとまりを意識できるようにした。中の4つに小見出しをつけ、児童が内容把握しやすいようにした。</div> 2 「ウミガメの命をつなぐ」の「段落構成図」を作成する。 |  |
| | 3 | <ol style="list-style-type: none"> 1 第6～9段落（中①）の「問い」に対する「答え」を読み取る。 2 中①「ウミガメの産卵研究」の内容の中から自分が興味をもったことを選び、紹介文を書くために大事な文や言葉を探す。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研究について読み取る際には、年月の流れや指示語等を意識させた。自分が興味をもったところを囲ませた後、キーワード集めのワザ（指示語、何度も出てくる言葉）を使い、大事な言葉を選んだ</p> </div> |
| | 4 | <ol style="list-style-type: none"> 1 第10～18段落（中②）の「問い」に対する「答え」を読み取る。 2 中②「子ガメを海に放流する研究」の内容の中から自分が興味をもったことを選び、紹介文を書くために大事な文や言葉を探す。 |  |
| | 5 | <ol style="list-style-type: none"> 1 第19～21段落（中②）の「問い」に対する「答え」を読み取る。 2 中③「生活の様子をさぐる研究」の内容の中から自分が興味をもったことを選び、紹介文を書くために大事な文や言葉を探す。 |  |

| | | |
|----------------------|---|---|
| | <p>3 中①～③の中で、自分が一番紹介したいこと（興味をもったこと）を選ぶ。</p> | <p>児童の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードでみんなが知っているような言葉や何度も使われている言葉を見付けた。 ・要約するために、大事な指示語や問いの答えなどに注目したら見付けることができた。 |
| <p>6 本 時</p> | <p>1 要約の方法について知る。</p> <p>2 興味をもったことを中心にグループごとに文章を要約する。</p> <p>3 要約文を読み合い、感想を伝え合う。</p> |  <p>児童の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章をけずったり、文末などをシンプルにしたりして短く文章をまとめることができた。 ・大事な言葉や文を見付け、みんなに伝えるか考えて短くまとめて書くことができた。 |
| <p>7</p> | <p>1 「要約」を取り入れて紹介文を書く。</p> <p>2 書いたものを読み合い、感想を伝え合う。</p> | <p>児童の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味をもったところの感想を書くことができた。「ウミガメの命をつなぐ」の続きが読んでみたいと思った。 ・これから何かを伝える時に要約を使ってわかりやすく話したい。 |

「ありの行列」で作成した要約文(モデル文)を例示しながら、要約のワザを紹介する。(ICTの活用)

